

# CUBAPON に

連帯と友情の証

# ICAP 創立 60 年記念メダル授与



昨年、ICAP(キューバ諸国民友好協会)はキューバとの連帯行動に貢献した友好団体として CUBAPON への ICAP 創立 60 周年記念メダルの授与を決定し、去る 5 月 27 日、キューバ大使館においてメダル授与式が行われました。

贈呈式には CUBAPON から君島一宇・代表委員、鎌田篤則・事務局長、村上久美子・次長、根岸均・委員が出席し、駐在の大使館員が顔を揃える中、ミゲル・ラミレス駐日キューバ大使から「長年の CUBAPON のキューバへの支援と連帯への感謝」の言葉とともにメダルと感謝状、記念品が手渡され、続いて、君島代表委員が CUBAPON を代表して謝辞を述べました。



(仮訳)

ICAP (キューバ諸国民友好協会)

フェルナンド・ゴンサレス・ジョルト ICAP 総裁は、

決議 No.1/2017 (2017 年 4 月 5 日ホセ・ラモン・バラゲル・カブレラ氏による発出) 及び決議 No.122/2012 「ICAP 組織規程」第 21 条(その職権の一端として、ICAP の機能を最大限向上させるため諸規則を発行することを定める)に則り、私に付与された職権を行使して、ここに通知する:

故に: 決議 No.1/2020 に則り、「ICAP 創立 60 周年記念活動の年間計画」に沿って、「ICAP 創立 60 周年記念メダル」を発行する。その目的は、キューバとの連帯運動に参画している団体を今回特別に表彰することである。対象団体となるのは、キューバ革命を擁護する活発な活動を継続し、キューバの政治・社会・経済変革に関する事実を発信し、諸国民の友好関係を促進している団体。

故に: 上述の諸要素にかんがみ、決議 No.122/2012 「ICAP 組織規程」第 21 条 (ICAP 総裁の職権と職責を定める) に則り、私は本状の発出を決定した。

指令 No. 55

第一: 「ICAP 創立 60 周年記念メダル」を以下の者に授与する。

CUBAPON 日本キューバ連帯委員会

第二: ICAP 総裁室は「ICAP 創立 60 周年記念メダル」の受賞者への引き渡しを担当する。

発出: 2021 年 12 月 27 日、ハバナ市  
"革命 63 年目の年"

ICAP 総裁

フェルナンド・ゴンサレス・ジョルト

【写真】

(上) ICAP 創立 60 周年記念メダルと感謝状  
(左) ミゲル・ラミレス駐日大使(左) と、(左から) 君島代表委員・村上次長・鎌田事務局長

【2 面に続く】

## 謝 辞

ICAPとキューバ大使館へ

親愛なるミゲル・ラレス大使よりこのような感謝状を頂き誠にありがとうございます。

1993年12月初めて訪れた以降、これまで16回訪れました。訪れるたびに必ず表敬訪問し懇談を重ねたのはICAPとCTCです。そしてファミリードクター・ポリクリニックなどの医療機関、さらに小中学校など教育施設に加え、かつてのUBPC(共同農場)など有機栽培農場や革命の歴史をたどる様々な施設も何回となく訪れました。

訪れた都市は、ハバナはもちろんのこと、サンタクララ、トリニダ、プラヤ・ヒロン、シエンフエゴス、サンティアゴ・デ・クーバではモンカダ兵営跡、またマローネ展望台よりグアンタナモ軍基地を視察をし、パラデロ、カヨ・ラルゴ島、そしてフベントゥ島(青年の島)では現地日系人協会との交流や、島の「ヘスス・モンタネ・オロペサ大学」の協力を得て稲作支援活動を行ってきました。そして3年前から島のヌエバ・ヘロナ市に日系人「友好の家」を建設中です。ハリケーンやコロナウイルスなどのアクシデントで資材調達に時間がかかりまだ完成していませんが、今年11月訪問予定までには完成してほしいと願っています。

今回のICAPからの感謝状(勲章)を期にキューバ共和国との友好親善の活動を引き続き行い強めていきたいと思えます。

本日はありがとうございました。

2022年5月27日  
CUBAPON 代表委員 君島一宇

君島代表委員からは謝辞の言葉として、CUBAPONの活動の中でキューバと友好を深めてきた自らの体験が語られ、今後とも一層、連帯運動に力を尽くす決意が述べられました。

贈呈式のセレモニーに続いて乾杯が行われ、軽食をいただきながらそれぞれにキューバへの思いを語り合い、楽しいひとときを過ごしました。

### キューバのネットニュース

## 「プレス・ラティーナ」にも掲載



CUBAPONへの「ICAP創立60周年記念メダル」贈呈式の模様は、駐日大使館公式ツイッターアカウントからも発信され、ICAP本部やアジア・オセアニア担当のラファエラから祝福のコメントが寄せられました。

また、当日のうちにキューバのネットニュース「プレス・ラティーナ」に写真入りで掲載され、記事を見たキューバの友人たちからお祝いのメールが届きました。

「これは、思った以上に大変なものを頂いてしまった」という思いが、ひしひしとわいてきました。

ICAPの友情に応えられるよう、今後ともキューバの情報発信や友好訪問団の成功に向けて頑張っていこうと改めて思いました。

(記：CUBAPON事務局次長 村上)



### 上写真：CUBAPONの活動の歴史の一コマから 手作りのキューバ国旗でフィデル初来日を歓迎の出迎え

結成間もないCUBAPONに駐日キューバ大使館から電話がありました。1995年12月のことです。「フィデルが12日来日するので歓迎出迎えに成田空港へ行ってくれないか」とのこと。急な話で、歓迎出迎えと言っても何をしたいかわからず、急遽、模造紙やポスターカラーを買い、手作りでキューバ国旗を作りCUBAPONメンバー2人が成田空港に出向きました。

ところが非公式の訪日ということかどうか(？)、通常の一般出口ではありませんでしたので、アタフタしましたが何とか出迎えに間に合いました。

PL PRENSA LATINA TV RADIO NOTICIAS

NOTICIAS

### Comité de solidaridad japonés recibe distinción de entidad cubana



Tokio, 27 may (Prensa Latina) El Comité de Solidaridad Cubapón recibió hoy en esta capital el sello conmemorativo Aniversario 60 del Instituto Cubano de Amistad con los Pueblos (ICAP).

## 頑張れ！キューバ

## 困難と闘うキューバとさらに連帯を！



キューバでは悲しいニュースが2つ続きました。

5月9日、ハバナ・ビエハの5つ星「サラトガ・ホテル」(画像・左)でガス爆発事故が起き、死者46人、約400人の負傷者を出す大惨事となりました。ホテルでは当時、コロナ禍による閉鎖を利用した改修工事が行われており、リニューアルオープンを翌週に控えた矢先の事故で、宿泊客がいなかったのは不幸中の幸いでしたが、従業員と近くの小学校の教師、生徒が事故に巻き込まれました。

また、6月4日、ハリケーン「アガサ」がキューバ島西部に上陸、現時点で死者3人、避難者多数、61件の建物の倒壊被害が報告されています。

一方、キューバでは6月1日、医療関係者など一部を除きマスク着用義務が解除され、コロナ

で足止めされていた観光事業の本格的な復活をめざしています。東京ートロントーハバナのエアカナダ路線も10月28日に再就航が決定しました。CUBAPONも、今年秋には3年ぶりとなる友好訪問団を実現させ、苦しい中で頑張るキューバを励ましたいと、現在、企画を進めているところです。足を運ぶことが一番の連帯です。ぜひキューバに連帯しましょう！



## CUBAPON 2021年度収支報告

作成 2022/6/13

支出		
会報印刷代	138,738	63号、64号、65号
その他印刷代	130,590	チラシ、封筒、資料、パンフ
送料 送金料	251,538	会報、連絡、郵振など
事務局諸費	52,948	HP、PCインク、交際費等
事業費	40,933	DVD制作経費補填
緊急支援	920,880	大使館経由でキューバへ支援
資料代	10,600	カリブ社会主義買取、他誌代
借入金返済	59,601	20借入
計	<b>1,605,828</b>	



CUBAPONは  
皆さまの会費とカンパで運営して  
います。  
今後ともご協力をお願いします。

DVD「キューバの日系人たち」  
制作経費収支

2022/5/31現在)

協賛金 ※主なところ	CUBAPON関係(21件)	200,000
	自治労関係(8件)	600,000
	キューバ教育研究会(11件)	100,000
	労働者運動研究会	100,000
	収入計	1,000,000
制作費	制作費一式(マスター)	500,000
	DVD制作(60枚)	105,600
	資料収集調査費一式	50,000
	支出計	655,600

未執行スペイン語版制作のため**344,400円**をプール。

制作及び頒布に伴う諸費40,933円 呼掛け 宣伝 令状・送料 有料売上その他)はクバポン基本会計で処理。

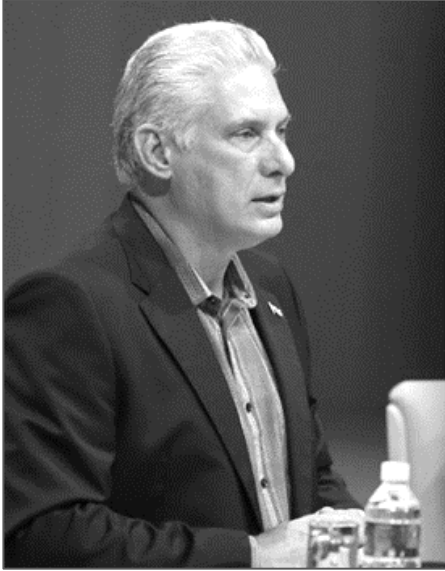
※ 前年度比で会員数及び活動カンパ件数も増えた。

※ 非通常戦争下のキューバ支援で多額の賛同カンパを頂き、**920,000円(支援実費)**をキューバに届けることができた。

※ 日本人移民記録DVD制作事業事務経費の一部補填。

※ 収支バランスは会費、活動カンパ増により赤字を回避。次年度繰越**18,211円**。

※ 会報3回発行の他、Eメール情報発信活動(16回発信)を行うことができた。



団結しよう、分断ではなく。  
加えよう、減らすのではなく。  
尊重しよう、強制ではなく。  
ホセ・マルティが美しく描写しボリーバル  
が夢見た「我らのアメリカ」を決意と自尊心  
を持って守り、「一つの祖国」を築きあげる  
ときだ。先人に敬意を払い、我らの地の尊厳  
を守り抜こう。

—キューバ ディアス=カネル大統領  
Miguel Diaz-Canel Bermúdez

PRÉSIDENTE DE LA  
REPUBLICA DE CUBA

## これ以上、

6月6日より、ロサンゼルス  
で開催された米州サミットは、  
主催国アメリカがキューバ・ベ  
ネズエラ・ニカラグアの排除を  
明言し、招待しないとしたこと  
から、これに反発する中南米の  
国の首脳から不参加が相次ぎ、  
開催前から失敗という醜態を  
示しました。

キューバ・ベネズエラ・ニカラグアを孤立させる目的で  
「排除」をぶち上げ、「米州サミットに招待しない」とした  
米国に対し、いち早く反応したのはメキシコのロペス・オ  
ブラドール大統領です。5月6日に「もしも主催国である  
米国が、米州サミットに何らかの国を排除するならば、参

加することはない」と断言しました。

これに続いたのはボリビアのアルセ大統領です。5月  
11日に「米州サミットから姉妹国の排除が続くなら私は  
参加しない」と表明、翌12日にはホンジュラスのシオマ  
ラ・カストロ大統領が「全ての国が揃わないなら首脳会議  
じゃない」とコメントして不参加を表明し、カリブ共同体

5頁上段

## キューバ革命政権声明

### 「米州首脳会議、帝国主義支配と排除」

米国政府はホスト国としての特権を乱用して、本年6月にロサンゼルスで開催される「第9回米州首脳会議」からキューバとベネズエラ、ニカラグアを除外することを早くから決定していた。この差別的で容認できない姿勢を改めるよう、多くの政府から正当な要求があったにもかかわらず、米国は聞き入れようとはしなかった。

西半球のどの国であっても、同会議から非民主的かつ恣意的に除外されることを正当化する理由はひとつもない。これは2012年にカルタヘナ・デ・インディアスで開催された第6回会議以降、ラテンアメリカ・カリブ海諸国が警告してきたことである。

ミゲル・ディアスカネル・ベルムデス大統領は去る5月25日、出席しないことを前もって発表した。それは「**西半球の全ての国が平等に招待されないのであれば出席しない**」というキューバの断固たる決断であった。

その傲慢さ、不愉快な真実が人々の耳に入るかもしれないという恐れ、今回の会議で西半球における最も緊急かつ困難な課題について議論するのを避けようと努めていること、加えて自国の弱く両極化した政治制度が抱える矛盾そのもの、これらを背景として米国政府は再び、排除という手段を選択した。その目的は、今回の会議を具体的な成果はなくとも、帝国主義のイメージにとっては有益な会合とすることである。

「域内の全ての国が招待されなければ、出席を見送る」とする多くの国々の意向を抑えるため、米国政府が域内各国の政府に対してハイレベルでの働きかけを徹底的に行っていたのは周知の通りである。その中には、道徳に反する圧力や威嚇、脅迫、汚い策略が含まれていた。これは帝国主義の慣行であり、域内の国々への伝統的な軽視を反映するものだ。最も強い言葉での非難に値する。

キューバは、全ての国家の平等な参加を擁護する多数の政府の威厳ある、勇敢で、正当な姿勢に感謝し、敬意を表するものである。メキシコのアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール大統領のリーダーシップは、とりわけ称賛に値する。カリブ共同体 (CARICOM) 加盟諸国が排除に反対して取った明確で迅速な対応、ならびに、ボリビアのルイス・アルセ・カタコラ大統領とホンジュラスのシオマラ・カストロ大統領の毅然とした姿勢を高く評価する。ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体 (CELAC) 議長国であるアルゼンチンの姿勢は、多くの中南米諸国政府が公式に、また私的に表明してきたように、差別的サミットに反対する域内の大多数の意見を表明するものである。

域内の国々への米国の差別的な振る舞いに対するこの純粋で自然発生的な連帯は、「我らのアメリカ」の諸国民の感



# 我々は黙ってはいない！

## 「団結」で排除に抵抗・米州サミット欠席相次ぐ

4頁上段

の加盟国 14 カ国も一致して不参加を表明、グアテマラのジャマティ大統領が「グアテマラは小さな国だが自尊心はある」と述べ、これに続きました。

「これ以上、我々は黙ってはいない」とサミットに乗り込んだアルゼンチンのフェルナンデス大統領は CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）の輪番代表として、キューバ、ベネズエラへの経済封鎖を厳しく糾弾し、「主権国に排除する権利はない」と米国の態度を非難しました。



米州サミット開催がどうなるか懸念を持って見守っている。

私たちはキューバ、ベネズエラ、ニカラグアの排除を力を込めて拒否する。全ての国が同じ条件で招待されない限り私は参加しないことを再度表明する。

—ボリビア アルセ大統領

Luis Alberto Arce Catacora

PRESIDENTE DEL ESTADO  
PLURINACIONAL DE BOLIVIA



4頁下段

情を反映するものである。米国は、域内におけるキューバへの支持を過小評価するかたわら、一方的で全世界が拒絶するキューバ敵視政策をあたかも西半球の総意であるかのように押し付けようとしたが、招待国を巡っての議論はその逆を証明するものになった。

去る5月27日にハバナで開催された第21回米州ポリバル同盟（ALBA）首脳会議では、排除および差別的・選別的な待遇を断固として否定することが表明された。このような性質の排除により裏付けられることは、米国がこのハイレベルの対話メカニズムを米州機構（OAS）や米州相互援助条約（TIER）などの20世紀に構想された枠組みと同様、西半球における覇権システムの道具として想定し用いていることである。その狙いは域内諸国の独立と主権を制限し、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の団結と統合の希求を阻害することである。

これらはモンロー・ドクトリンを適用し、分断の道具として排除を推進する取り組みの一環であり、明らかに政治的、選挙目的、かつ支配の利害に基づいている。

西半球を構成するすべての国を含めることなく『米州』を語ることはできない。われらの地域が求めているのは、排除ではなく協力、卑屈ではなく連帯、傲慢ではなく尊重、従属ではなく主権と民族自決だ。

ロサンゼルスで採択しようとしている文書は、域内の真の問題から乖離しており、現実には無益で空虚なものである。これは、米州機構（OAS）に選挙プロセスの正当性の有無を決定する超国家的特権を与え、さらに、移民に対する抑圧的、差別的、排除的対応をラテンアメリカ・カリブ海諸国の政府に強要しようという取組みをさらに上回るものだ。

大きな政治的・道徳的権威を持ち、自国民及び世界から認められている複数の首脳が、称賛すべきことに決然と欠席する中、ロサンゼルスでは会期中、今まで同様、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の声が響き渡るであろうことを私たちは知っている。

また、出席を決めた首脳らは、「米国が20世紀に行ったような方法で私たちの国民を扱うことは不可能である」と威厳をもって主張するすべを備えていると、私たちは心から確信している。

西半球の統合を理性的な共存や平和、多様性の尊重、連帯に基づいて推進する正当な取組みについて、キューバはこれを支持する。域内の諸国民が直面している最も差し迫った課題に対して、キューバが現実的で具体的な解決策を適切に提案することで無条件に協力、貢献していることは広く認められている。しかし、今日、西半球の現実はその希求からかけ離れている。



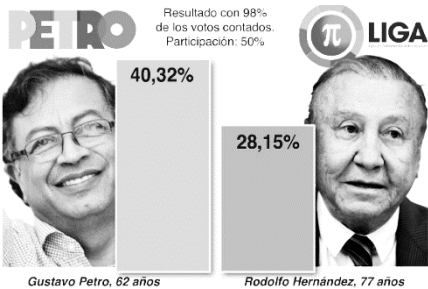
# 今、中南米では

中南米情勢が緊迫しています。  
CUBAPON はキューバ連帯の旗  
を掲げるとともに、中南米の人民の  
闘いと状況を発信します。

## コロンビア



### ● コロンビア大統領選 建国史上初「左派政権」誕生へ猛ダッシュ —左派候補グスタボ・ペトロ勝利、第2ラウンドへ！



5月29日、コロンビア大統領選挙が行われ、左派候補グスタボ・ペトロ候補（62歳）が40.34%、8,523,554票を獲得、28.17%、5,951,901票を獲得したロドルフォ・エルナンデス（77歳）と第2回投票で対決することになりました。

諸悪の根源ウリベ→現大統領ドゥケ直系のグティエレスは23.87%、5,504,120票で第3位にとどまりましたが、2位のエルナンデスも「私は思想家ヒトラーを尊敬している」、「女性が政府に関与することは、人々はあまりそれを好まない」といった問題発言が目白押し、ウリベと似たり寄ったりの化石のようなじいさんです。

敗れたグティエレスとスタンスが近いことから、グティエレス票は当然、エルナンデスに流れる見通しですが、目を追うごとにペトロが支持を伸ばしている中、勝機は充分あります。

コロンビア建国史上初の左派政権が誕生するか、このニュースがお手元に届くころには決しているはず。注目しましょう。

## アルゼンチン

### ベネズエラとの関係正常化を呼びかける

アルゼンチンのフェルナンデス大統領（写真・右）が4月19日、訪問先のエクアドルで、「ベネズエラのマドゥロ政権と完全な外交関係を回復する」と発表しました。談話の中で「ベネズエラは困難な時期を乗り越えた。多くの問題は解消されており、ベネズエラは前進している」とし、CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）暫定代表として「ラテンアメリカ各国にも関係正常化を呼びかける」と述べました。



この発言にさっそく米国上院議員マルコ・ルビオ（左）が「マドゥロとの関係を再構築するというアルゼンチンの決定は米国の安全保障に対する脅威である」（写真下・左）とかみつきました。そうやって「何でもかんでも脅威になる米国の虚弱体質」が問題だし、その米国こそ「他国に最も脅威を与えている国」ではないでしょうか。



ともあれ、リマグループによるベネズエラ包囲網、経済制裁、グアイド「大統領」騒ぎ、人道支援搬入を装った介入と、米国の音頭で「ベネズエラ叩き」に狂奔したラテンアメリカはもう存在しません。すべて良い方向に向かうことが期待できます。これもベネズエラ人民が団結で勝ち取った成果です。

### セニョリータのラ米★ウォッチ

中南米のホットなニュースを不定期でお届けしています。配信ご希望の方はこちらのアドレスにメール下さい！



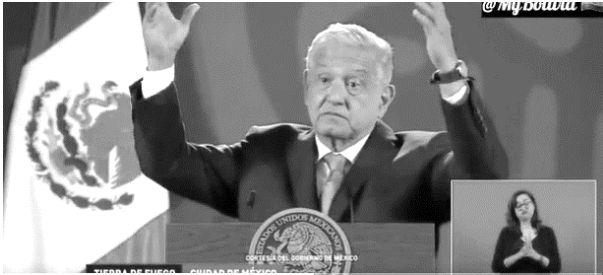
javccpf@rmail.plala.or.jp

失敗した政治だ。見なさい、どれだけの害悪が引き起こされているか。人の命が失われている。

「武器のためにどんどん金を出す。私は武器を送る。あなた方は大勢の人々をあの世に送れ」などと簡単に言う。

道徳の欠片もない！

—メキシコ・ロベス・オブラドール大統領



## ウクライナ紛争

# 敵対ではなく「平和的解決」を！

ウクライナ紛争は、欧米主導のロシア制裁やウクライナへの武器供与によって平和的解決とは真逆の方向に進んでいます。

一方、中南米諸国は制裁には一国も加わっていない上、メキシコ大統領は武器供与に対しても厳しく批判しています（左）。

今、冷静で客観的な中南米の声を聞くべきときです。



### 「キューバはすべての関係方面の安全と主権を保障する解決を支持する」—キューバ革命政府声明

米国がNATO（北大西洋条約機構）をロシア連邦との国境方面に漸進的に拡大しようと固執し続けていることが、予測不可能な度合いの影響をもたらす場面につながった。この場面は避けることが可能だった。

米国とNATOが過去数か月、ロシア連邦と隣接する地域に向けて行った軍事活動は周知の事実である。こうした軍事活動に先立ってウクライナへ最新兵器が供与されている。このことは全体として、漸進的な軍事的包囲に相当する。ロシア連邦による米国とNATOに対する正当な要求について、武力行使や法的原則及び国際的な諸規定の不遵守につながった諸要素について、これらを入念に検討せずしてウクライナ情勢を厳密かつ客観的に分析することはできない。キューバはこれらの法的原則及び国際的な規定に調印しており、強固に支持するものである。これらは特に小国にとって、覇権主義や権力乱用、不正義に対抗するためには不可欠の基準である。

キューバは国際法の擁護国であり、国連憲章にコミットしている。キューバは常に平和を守り、いかなる国に対する武力行使または武力による威嚇にも反対する。

ウクライナで罪のない民間人の生命が失われたことを、われわれは深く遺憾に思う。キューバ国民はウクライナ国民と親密な関係を築いてきたし、それは現在も変わらない。

NATO域外で攻撃性を増す軍事ドクトリンがもたらす結果について、歴史は米国の責任を問うだろう。この軍事ドクトリンは国際的な平和や安全、安定を脅かしている。NATOが最近、その「即応部隊」の展開を初めて決定したことに、われわれの懸念はさらに高まっている。

ロシア連邦による安全保障上の根拠のある要求を数10年間にわたって無視し、国家安全保障への直接的な脅威を前にして同国が無防備のまましていると想定してきたのは

過ちであった。ロシアは自衛する権利を持っている。国家を包囲したり、追い詰めたりして平和を得ることはできない。

2月25日に国連安全保障理事会にて採択されず、総会に提出されるであろうウクライナ情勢についての決議案は、現在の危機の解決策の模索に真に寄与するものとして構想されたものではなかった。それどころか、均衡を欠いた文案であり、すべての関係方面の正当な懸念を考慮に入れていない。また、紛争の激化を加速させた攻撃的な行動を扇動し、展開した者たちの責任を認めていない。

われわれは欧州における現在の危機に対し、平和的な手段を通じた真剣で建設的、現実的な外交的解決を支持する。その外交的解決とは、すべての関係方面の安全と主権、さらに地域的・国際的な平和、安定、安全を保障するものである。

キューバは偽善と二重基準を拒否する。1999年に米国とNATOは国連憲章を無視し、地政学的目的のためにユーゴスラビアに対し大規模な攻撃を仕掛け、多くの命を犠牲にし、同国をバラバラに分断させたことを思い出すべきである。

米国といくつかの同盟国は多くの機会に武力を行使した。体制転換を引き起こすために主権国家に侵攻した。そして米国による支配の意図に屈せず、領土保全や独立を守る国々の内政に干渉した。

彼らはまた、自らの略奪戦争の結果として、「副次的被害」と彼らが呼び何10万人もの民間人の死や、何100万人もの避難民、地球上の全ての大地の破壊についても、その責任を負う。

2022年2月26日

キューバ外務省（ハバナ）



# 3年ぶりのキューバへ!

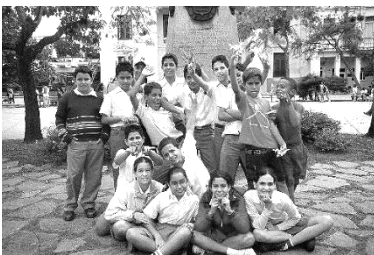


コロナ禍で中断を余儀なくされた「CUBAPON 友好訪問団」ですが、今年秋、「3年ぶりのキューバ」をめざして動き始めました!

コロナ禍で世界の注目を集めたキューバの医療と国際貢献、通貨統一とともに進む経済改革など、激動のキューバを体感してみませんか。ぜひご参加ください。



フィデル・カストロセンター



青年の島の子どもたち



サンタクララのゲバラ廟

## CUBAPON キューバ友好訪問団【11月20日~27日】(予定)

	都市名	スケジュール	食事
1	羽田発 ハバナ着	午後：エアカナダで空路、トロントへ 国際線乗継ぎ、ハバナへ	朝：機 昼：機 夕：×
2	ハバナ	【世界遺産】ハバナ旧市街・モロ要塞、革命博物館 近年オープンしたフィデル・カストロセンター見学	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	ハバナ 青年の島	空路、青年の島へ 友好の家訪問、島のICAP訪問、島の日系人会と交流	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	終日青年の島	小学校、中学校、診療所訪問	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	青年の島 サンタクララ	空路、ハバナ国内空港／専用バスでサンタクララへ チェ・ゲバラ廟、ゲバラ博物館、カピー口の丘、 列車転覆博物館など、チェゆかりの地を訪ねる	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	ハバナ	友好協会・労働組合中央本部表敬訪問 小説「老人と海」舞台コヒマル、市内でショッピングなど	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	ハバナ発	早朝、エアカナダで空路、帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	羽田着	午後：羽田着  お疲れさまでした	朝：一 昼：機

## 参加ご希望の方はご一報ください

詳細が決まり次第、資料をお送りします。

TEL : 03-3268-4387

E-mail [jvccp@rmail.plala.or.jp](mailto:jvccp@rmail.plala.or.jp)

IFCC(鎌田)

## TOUR OPERATOR

アイエフシーは  
CUBAPON関連の手配旅行者です

### キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはFCC国際友好文化センターの関連旅行会社です。「人と人との出会い」を通じた友好交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム 中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405

TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079

## 編集後記

◆ウクライナ紛争が世界に大きく影を落としています。CELAC(ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体)は武力の不行使と紛争の平和的解決を明記した「平和地帯宣言」を2014年に採択しています。軍事同盟NATOの強化、拡大にひた走る欧米とはまさに対照的。今、学ぶべきは欧米ではなく中南米、求めるべきは軍事同盟ではなく不戦条約ではないでしょうか(村)

## ご連絡

CUBAPONはIFCC気付で活動していますが、IFCCは8月1日以降、下記の住所に移転します。

〒東京都新宿区山吹町316番地 菊地ハイツ101

※TEL.FAXの番号は変更ありません。